

応じた適正な開発計画を策定し、その具体的な充実促進をはかる。

★観光ルートの設定

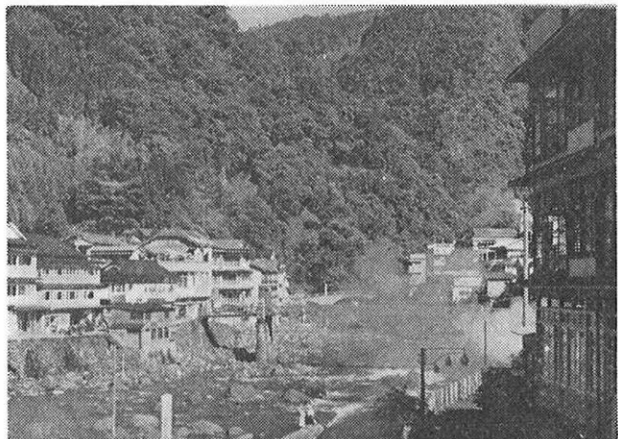
観光客の周遊化の傾向にこたえ、その受け入れ

# 飛躍する「観光くまもと」のカルテ

体制の整備と各観光地相互の計画的な連携の発展を推進するため、国際観光ルートをはじめ県内外を結ぶ観光ルートを設定する。

★道路、輸送施設等交通網の整備強化

・観光道路の整備促進



＜美しく、豊かな温泉郷に恵まれて……＞

全線開通をみた九州横断道路の本県観光に及ぼす影響は著しいものがある。

さらに観光基盤として必要な九州縦貫自動車道、九州縦断道路、阿蘇スカイライン、熊本、宮

崎間観光連絡道路など幹線道路の建設促進と幹線道路と観光地を結ぶ連絡道路を整備する。また必要により主要観光地を結ぶ有料道路の建設を促進する。

・輸送施設の強化

鹿児島本線の複線化、電化をはじめ東京、関西を結ぶ特急、急行列車の増発、各国鉄線の気動車化、ダイヤ、車両等の改善をはかる。

そのほか、自動車旅行の増加に伴う輸送力、サービスの不全をはかるほか、航路、空路輸送についても整備を促進する。

★宿泊施設の整備

急増する観光客の受入施設の不足の現状から、資金対策の強化をはかり、旅館の新築、増改築の整備の促進する。さらに外人観光客の受け入れに対応するため、主要観光地域に同様観光ホテル、旅館の配置を誘導する。

また、一方旅行の大衆化に応え、国民宿舎、ユースホテル等公共的施設の強化をはかり、あわせて学校、団体、会社等のレクリエーション施設の誘致につとめる。

★その他の利用施設の整備

広域観光市場を対象とした宣伝を活性化するため、県観光連盟の充実強化をはかるとともに、熊本、北九州、大阪、東京等における観光センターの充実をはかる。

★観光客の受入れについて

・サービスの向上

観光団の利便を増進するため、観光関係事業の経営者および従事者の資質とサービスの向上をはかる。

・観光観念の普及高揚

観光事業は、所得と雇用の増大等地域経済と県勢の伸展に重要な分野を占めるので、この事業に対する県民の理解と認識を深め、美化、環境整

各観光地の開発方向に応じて、保養センター、セントラルロッジ等の休養施設、野営場、園地、休憩展望施設、海辺施設等の野外施設、観光会館、歴史博物館等の文化娯楽施設そのほか駐車場、案内施設を設置して観光利用に供する。

★観光企業の振興

宿泊、休憩施設、遊覧施設などの観光施設整備については、民間企業による投資に負うところが大きいため、民間企業の積極的な育成ならびに誘致につとめる。

さらに具体的な導入にあたっては、本県観光開発の基本的方向に即応して適切な行政指導を行ない、融資の促進と日本開発銀行、中小企業金融公庫など関係中央資金の導入の助成措置を講ずる。

★観光産業の振興

観光開発は、地域住民の所得の向上、観光関連産業への就業の増加、さらには地場産業の振興などの経済的効果は大きいものがあるので、観光事業と地場産業の関連性の強化につとめる。

また、地方色豊かな本県みやげ品、特産品の育成と郷土民芸品の商品化をはかる。

★観光資源の保護開発

・自然公園および景勝地の保護開発  
国立公園、国定公園、県立公園等におけるすぐれた自然の風景地の保護につとめるとともに、美観風致地区、都市公園を整備する。  
また、本県の豊富な温泉資源を活用して温泉地の造成、利用施設の充実につとめる。

・文化財等の保護活用

史跡、名勝、天然記念物等文化財および本県を

備運動などの推進につとめ、観光客をあたたく迎える県民の協力体制を確立する。

・衛生施設の整備促進

観光地の環境衛生の向上をはかるため、観光地における上下水道、清掃施設その他環境施設の整備につとめる。

★観光地の美化

清潔な観光地の造成および美観風致の維持のため、各関係機関の連携により観光地美化運動を展開する。(観光課)

代表する豊かな郷土民謡と民芸について保護活用をはかる。

★観光宣伝活動の強化

・総合宣伝の推進

観光客の周遊化に応え、観光地および観光ルートを一本化した具体的宣伝を強力に推進する。具体的方法としては、関係機関、団体の連携を緊密にし、本県の特徴ある多彩な観光資源を高度に宣伝面に生かし、宣伝媒体の十分な活用を行なう。

また、国際的観光地をもつ本県としては海外宣伝も今後積極的に推進する。

・県観光センターの充実

## 観光くまもと 一言

### 皮の酒袋

宮崎 精一

その皮袋の素朴なつくりと、民芸的な味わいの中から溢れるなつかしい旅情……

昨今の観光ブームの折、新しくできの観光施設について思うことは、その土地の風土性がないことである。市民の感情から遊離して建物は冷たい壁をつくらしている。地についた観光施設ならともかく、騒々しい営業的な施設はふやさぬ工夫が必要だろう。生活の慰めとしての観光が、金や物質のための観光になっては情ない。結果は観光が生活を破壊するのである。

数年前のヨーロッパ旅行の折の思い出

だが、ヨーロッパはチリ一つなかったといえは大きくなる、が道路や公園の紙

クズやチリは掃く前に通行人が拾ってチリ籠に入れていた。パリでは街灯の下には必ずチリ籠があった。市内の公園は人吉市の半分位の広さで、時間をきめて閉

ある日公園を歩いていた時のこと。近くでマリ遊びをしていた子供がマリを飛ばして芝生の中に入ろうとしたら、横からサツとお巡りがきてマリを拾い上げてくれた。公園を自分の庭のように大切に

している姿がそこにあった。公德心とは自分を含めた、公共に対する愛情の問題であり、教育の問題ではないかと痛感した。「国土美化」「小さな親切」「旅の新生活……」等々年から年中の運動づくめ

では、何となくみじめさがつのるのである。ついながら、民芸品について。

最近では民芸品といっても妙にテカテカした味気のないものがふえた。昔ながらの渋い色つけ、素朴な造型がすたれてきたようだ。みやげ品もその土地柄から生まれた味わいがあるてこそみやげ品としての価値があるわけで、変な安メッキもや、さわったら後ではげるとなるとい

今ここにスペインで買ったみやげ品の皮の酒袋がある。何ということはない。只の皮袋である。手づくりの、愛情のこもった素朴な、それでいて旅情をそそる素晴らしい魅力があるのである。(画家)

★観光客および消費額の推移(単位千人)

区分	昭31		昭34		昭35		昭36		昭37		昭38	
	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	対前年	
県外客	2,590	3,028	104	3,275	108	3,695	113	3,267	88	4,451	136	
県内客	2,450	2,983	104	3,218	108	3,743	116	4,342	116	4,097	94	
計	5,040	6,011	104	6,493	108	7,438	115	7,609	102	8,548	112	
観光消費額(百万円)	2,820	4,020	126	5,300	132	6,850	129	8,000	117	9,500	119	